

歯科口腔外科

Department of Oral and Maxillofacial Surgery

歯科口腔外科長
別所 和久



口腔機能障害を来す すべての疾患が治療領域

摂食、咀嚼、嚥下、構音などの口腔機能は、人の生命活動に必須の機能である。しかし、さまざまな疾患によりこれらが障害を受けると、人が生活するうえで大きな支障を来すことになる。当院では関連各科と連携して集学的治療を行い、特定機能病院の歯科口腔外科として、重度の障害を呈する疾患、すなわち口腔腫瘍、顎変形症、顎関節症、歯槽堤萎縮症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症などに対して高次で高度な医療を提供している。

代表的診療対象疾患

顎変形症(上顎前突症・下顎前突症・顔面非対称・上顎後退症・小下顎症等)、顎口腔腫瘍(歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍)、顎骨嚢胞、口腔粘膜疾患、顎顔面口腔における外傷(顎顔面骨骨折等)、歯槽堤萎縮症(骨移植・歯科インプラントによる再建等)、顎関節症、睡眠時無呼吸症候群、炎症(歯性感染症・顎骨髄炎等)、口腔心身症(舌痛症等)

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

2013年度の外来患者数は延べ28,470人(うち初診2,911人)であり、患者紹介数は1,616人(55.5%)であった。一般歯科口腔外科外来診療に加えて、専門外来として組織再生インプラント、口腔腫瘍、顎関節、顎矯正、顎顔面骨骨折、睡眠呼吸障害、口腔難治性疾患(慢性神経因性疾患)、口唇裂・口蓋裂、審美歯科の9つの専門外来を設置している。また2012年度より周術期における口腔機能管理が重点課題とされたこともあり、術前後に継ぎ目なく口腔機能管理(口腔疾患治療、器質的および機能的オーラルケア)を多職種スタッフとの協働により行っている。

入院診療体制と実績

デイ・サージャリー部門では、積極的に日帰りあるいは短期入院手術を行っており、2013年度は全身麻酔、局所麻酔あわせて1,007件の手術を行った。病床数は20床で、2013年度の平均病床稼働率は88.8%、

平均在院日数は17日、年間延べ入院患者数は6,550例のうち中央手術室にて198件の手術を行った。主な入院手術は顎変形症58件、顎骨嚢胞30件、口腔腫瘍31件となっている。



臨床研究の取り組み

再生医療を含む多様な研究を展開

経口ビスフォスフォネート製剤と骨代謝マーカーに関する研究、顎骨壊死の抜歯後発症リスクに関するコホート研究、骨粗しょう症患者における顎骨髄炎の併存割合に関する研究や歯周病とリウマチ疾患に関する研究、顎骨移動術と閉塞性睡眠時無呼吸障害に関する臨床研究を行っている。

再生医療に関連して、ヒト組織由来幹細胞に関する研究や疾患特異的iPS細胞に関する研究、生体材料を利用した骨再建に関連した研究を

行っている。

また、オーラルヘルスと全身疾患との関係について、口腔疾患と循環器疾患やメタボリックシンドロームなどの全身疾患と関係を明らかにするだけでなく、口腔疾患にかかわる遺伝的・環境因子を同定するため、前向きコホート研究や患者対照研究、ながはま0次予防コホート事業に参加し全身疾患と口腔疾患に関する研究を行っている。